



奉納山公園の於国塔

出雲ブランド その5 スーパースター★ 歌舞伎の始祖 出雲阿国

おさめ記事

- 「出雲阿国」は安土桃山時代から江戸の初めに活躍した歌舞伎の始祖と伝えられています。残された肖像画は颯爽(さっそう)とした男装姿で描かれ、まさにスーパースターの貴族十分です。現在でも、歌舞伎役者や芸能関係者が阿国の墓にお参りするほど、篤く信仰されています。
- 「於国塔(おくにとう)」のある奉納山公園からは出雲平野が一望できます。国引き神話で国をたくり寄せたという縄「蘭の長浜」と、クサビにしたという「三瓶山(さんべさん)」が見え、出雲神話の舞台が目の前に広がります。



出雲阿国の墓

①歌舞伎役者や女優も訪れる「出雲阿国の墓」!

出雲阿国のお墓へ取材班はドキドキしながら向かったところ、お墓を見てビックリ!「お、お墓が割れている…」「いったい何が…」。背筋が凍る雰囲気の中、案内人さんの一言。

「このお墓は自然石でつくられた質素だけど味わい深いもの。石が割れているのはずいぶん前からで、自然の仕業ですよ。」これを聞いて、取材班もほっと胸をなでおろしました!ここでこのお墓は、歌舞伎役者の坂東彦三郎さんをはじめ、女優の水谷八重子さん、木の実ナナさんもお参りされたお墓で、運よくスターに出会えるかもしれません!

②「於国塔」には昭和を飾ったスターの名前が直筆で刻まれています!

於国塔がある奉納山へ上がる前に、階段前の広場にある「乳房イチョウ」を見学しました。枝の根元がおっぱいのような形になっている珍しいイチョウで、市指定天然記念物です。

そして、いよいよ於国塔へ。出雲阿国を顕彰して昭和11年に建てられたこの塔は、高さ6mで、男装して舞う阿国のレリーフがシンボルです。そして見どころは、塔を囲む石柱で、昭和初期に活躍したスターの名前が、スターの「直筆」を元に彫られた、知る人ぞ知る観光スポットとなっています!

地元の歴史家の調査研究によって58人もの歌舞伎役者、映画関係者、喜劇役者が明らかになっており、出雲阿国が芸能界全体から信仰されていたことを示す貴重なものなのだとか。どんな昭和のスターの名が彫られているかは、ぜひご覧になって確かめてみてください!

出雲ブランド 番外編 想いを届ける「ご縁」スポット ご縁ポスト



出雲大社から東に向かう「社家(しゃけ)通り」は清閑なたたずまいを今に残しており、自然と心が落ち着いてきます。

「想い」を胸にぎゅぎゅと詰めて歩いていると、真名井の清水の斜め前に様々なご縁がつながることを願う「ご縁ポスト」に出会えます。

神門通りのお店等で「はがきセット」を購入し、普段言えない想いを綴り「ご縁ポスト」から、大切な人、家族・友達へ届けてみませんか?

お問い合わせは
出雲ブランド推進市民委員(大好き☆出雲!倶楽部)事務局
〒693-8530 島根県出雲市今市町70 出雲ブランド室 TEL0853-21-6274
いずも暮らし ホームページ <http://izumonakurashi.jp/>



大好き☆出雲!

大好き☆出雲!
倶楽部
取材班が行く!!

出雲ブランドみつけた! 出雲の観光 スポット取材帳

出雲大社
周辺編

出雲大社に参拝された皆さん。
もうちょっと(少し)、おちろと(ゆっくりと)観光してごさいませ。
周りにまげな(すごい)見どころがまだまだありますけん!



出雲ブランド その1 神門通り

おさめ記事

- 神門通りは、明治45年、国鉄大社駅の開業とともに出雲大社への新しい参詣道として発展しました。大正4年、小林徳一郎氏から寄進された巨大な大鳥居と松280本がシンボルとなっています。
- かつて列車による参拝客で大いに賑わいましたが、自動車の普及により一時衰退。現在、「神門通り甕りの会」などの努力により、賑わいが戻ってきたホットな通りです。



勢溜から神門通りを望む



勢溜

②出雲の特産品(ブランド)を満喫!

神門通りには「出雲ぜんざい」「出雲そば」をはじめとしたお店が立ち並びます。食べくらべて、好みのお店を見つけてはいかが!



③「一畑電車出雲大社前駅」は国のお宝です!

昭和5年に建てられた駅舎で、美しいステンドグラスがあるモダンな造り。ノスタルジックな外観はどこか懐かしさと不思議さを感じさせます。駅舎の中で、ステンドグラスの日差しを二人で一緒に浴びると…めでたく「結ばれる」のだとか。

以前、駅舎で結婚式が行われたことがあるそうです。ロマンチックですね!建物は国の登録文化財になっていて、歴史的にも価値があり必見です!



一畑電車出雲大社前駅

④「ダイコクさま」の7つの石像探しにチャレンジ!

神門通り沿いにあるダイコクさまをすべて見つけて、ステキなご縁にあずかりましょう!



出雲大社の参道と御本殿周辺

おさすめ記事

●60年ぶりの出雲大社「平成の大遷宮」は、5年間にわたる御本殿修造が終わり、平成25年5月10日に「本殿遷座祭」が執り行われました。新調された桧皮(ひわだ)葺きの屋根、「ちゃん塗り」と呼ばれる特殊な塗装が施された千木(ちぎ)や勝男木(かつおぎ)を見ることができます。

①「ご参拝ガイド」を携行すれば新たな発見が!

ご参拝の際には、ぜひ「ご参拝ガイド」を携行してみてください。全国でも珍しい下り参道や、祓社(はらえのやしる)への参拝、4つの鳥居をくぐる、大神様の前での「2礼4拍手1礼」といった作法などが掲載されています。



神門通りの観光案内所で入手できます。



下り参道



祓社

②早朝の出雲大社にひびきわたる野鳥たちのさえずり!

ご案内いただいた神職さんから「出雲大社は早朝からご参拝いただけますが、早朝の鳥たちのさえずりは、まさに出雲ブランドではないでしょうか。」とお話。朝の清々しい空気と鳥たちのさえずり、とてもステキですね! 広大な境内に生息する90種類を超える野鳥が、ガイドパンフ「出雲大社境内自然ガイド 野鳥と憩う鎮守の社」に紹介されています。



出雲大社御守所にあります。

③御本殿周辺には珍しい神社が!

「神在月(かみありづき)」(旧暦の10月)に全国からお集りになる八百万(やおよろず)の神々の宿泊所が十九社(じゅうくしゃ)です。神在祭のときには、十九社の扉を開き神々をお迎えます。まるで神様のステキな旅館のようです!十九社は、東十九社と西十九社に分かれています。東日本の神様と西日本の神様は、どこを境に分かれてお泊りになるのでしょうか。

これぞ出雲! 出雲神話と神迎之の舞台

おさすめ記事

- 稲佐の浜は「国譲り神話」と「国引き神話」、そして「神迎之の舞台」です。旧暦10月は全国的に「神無月」といいますが、全国の神々が集まれる出雲では「神在月」といいます。旧暦10月10日に、神々を迎える神迎祭(かみむかえさい)がおごそかに行われます。
- 稲佐の浜を含めた長い海岸線(菟の長浜)は、国引き神話で「八東水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと)」が、あちらこちらの島を引っ張って出雲の国を造ったときの縄にあたるといわれています。

①八百万の神々の会議場「上宮」!

上宮は出雲大社の摂社(せつしゃ)で、御祭神は大国主神(おおくにぬしのかみ)の親神である素戔嗚尊(すさのおのみこと)と八百万神(やおよろずのかみ)です。地元ではこの神社を「お意(い)みさん」というそうです。これは、神々が「ご縁」会議をされる神在祭の間、歌舞音曲を慎み静かに過ごす出雲ならではの風習からだとか。本殿は出雲地域で最もポピュラーな大社造とは異なる伊勢神宮に似た造りで、県指定文化財になっています。上宮でぜひ「ご縁」にあやかりたいものです!



上宮(仮宮)

②大国主神が国を譲られた舞台「屏風岩と因佐神社」!

屏風岩の前で天界の使者「武甕槌神(たけみかづちのかみ)」と地上界の「大国主神」は争わず笑顔で国譲りを行われました。和を尊ぶ大国主神の心が、今も出雲の人に受け継がれています。因佐神社は出雲大社の末社で、地元では「速玉(はやたま)さん」といわれ、武甕槌神がまつられています。勝負の神様として受験やスポーツでお参りされる方も多く、国譲りの使者である神様も大切にまつられているのは、出雲人が和を尊ぶからなのでしょう。



屏風岩

③全国からお集りになる八百万神をお迎えする舞台「稲佐の浜」!

神迎神事が行われる場所が「稲佐の浜」です。神迎は、ご神火が焚かれる荘厳な雰囲気の中、龍蛇(りゅうじゃ)様(ウミヘビ)を神の使者としてお迎えし、神職がヒモロギ(大神(おおさかき)に幣(へい)が付いたもの)に宿られた神々を出雲大社まで案内されるおごそかな神事です。また、稲佐の浜は、明治21年に県内最初にオープンした海水浴場で、あの「怪談」で有名な「ヘルン(小泉八雲)」も海水浴を楽しんだとか。

稲佐の浜

出雲大社ゆかりの神社

おさすめ記事

- 出雲大社ゆかりの神社である摂社(せつしゃ)や末社(まつしゃ)は、境内の中と外、あわせて23社を数えます。
- 摂社は、おもに本殿の主祭神の御后(おきさき)や御子(みこ)などがまつられています。末社は、主祭神への役割を持った神様が多いようです。

①出雲大社御本殿とゆかりの神社までの距離と御祭神の関係は?

出雲大社の御祭神である大国主神とゆかりの神社の御祭神の関係について、出雲大社御本殿からの距離とあわせ知りたくになりました。御本殿の両サイドに御后①「御向社(みむかひのやしる)」(祭神:須勢理比売命(すせりひめのみこと))と②「筑紫社(つくしのやしる)」(祭神:多紀理比売命(たぎりひめのみこと))が、仲睦まじく建っています。そのすぐ隣は、大国主神の命を救われた女神③「天前社(あまさきのやしる)」(祭神:蛸貝比売命(さきがひめのみこと))、蛸貝比売命(うむがひめのみこと)です。そして、御本殿の背後には親神④「素戔嗚尊(そがのやしる)」(祭神:素戔嗚尊)が控えておられます。境内の外では、命の恩人である⑤「命主社」(祭神:神皇産霊神(かみむすびのかみ))が最も近くに建っています。御子(子ども達)で近いのは娘神⑥「乙見社」(祭神:下照比売命(したてるひめのみこと))。やはり娘は近くにいてほしいものなのでしょうか。息子達である⑦「阿須伎(あすき)神社」(祭神:阿須須伎高日子根命(あすきたかひこねのみこと))、⑧「三蔵社(みとせのやしる)」(祭神:事代主神(ことしろぬしのかみ))は最前線で神域をお守りされているかのようです。



①御向社 ②筑紫社 ③天前社 ④素戔嗚尊 ⑤命主社 ⑥乙見社 ⑦阿須伎神社 ⑧三蔵社

②出雲大社ゆかりの神社は魅力たっぷり!

命主社 いのちぬしのやしる

御祭神は神皇産霊神(かみむすびのかみ)で、大火傷を負われた大国主神に二人の女神を遣わされ、命を助けられました。江戸時代のはじめに出雲大社を建て替える際、この神社の後ろから出土した銅戈(どうか)やヒスイの勾玉が出土し、現在の重要文化財に指定されています。また、神社のすぐそばには、樹齢千年といわれる市指定天然記念物「ムクノキの大樹」があります。スピリチュアルな巨木の幹を見ていると、動物や人の顔などさまざまな模様浮かんでくるかのようです。



命主社

乙見社 おとみのやしる

御祭神は下照比売命(したてるひめのみこと)で、大国主神の娘神です。天界の天照大神(あまてらすおおみかみ)から、国譲りの使者として地上界へ遣わされた天稚彦(あめのわかひこ)は、使命を果たさず下照比売命と結婚し、二人で父神の国土経営を助けられたという話があります。使者を虜にするほどの美女だったのかもしれませんが、この女神は歌も詠まれたそうで、まさに才色兼備のスーパー女神ですね。



乙見社

市指定天然記念物「ムクノキの大樹」

